

## 地下鉄

地下鉄に乗っているが故ではない  
真っ暗な壁しか見えないが故ではない

私たちは電車の床に目を落としている  
かすかに潤滑油の匂いがしている

明日という日を置き去りにすること  
そのことが私たちの鼓動を速くする

次の駅、またその次の駅  
私たちはその度に顔を見合わせる

次に地上の光を見る時には  
少しばかり気恥ずかしい気持ちになるだろう

そして同時に  
ひとり穏やかで温かい空気を吸い込む

吊革が灯火に照らされて揺れている  
私たちは社内を映すドアに凭れている

くぐもったような走行音に包まれ  
私たちは同じ明日を手繰り寄せ合う

(2009.12.3)